

2014年3月期 第2四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q：上期業績（実績）について、売上、利益ともに8月9日（第1四半期決算発表時）発表予想を上回った背景は？

A：半導体機器事業におきましては、主に改造などの売上が予想を上回ったことによります。また、FPD 機器事業におきましては、下期売上予定の案件が上期に売上計上できたことによります。さらに、メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業におきましては、国内向け売上が想定を上回ったことによります。これら売上の増加に伴い利益も予想を上回る結果となりました。

Q：第3四半期の半導体機器事業と FPD 機器事業の受注見通しは？

A：半導体機器事業におきまして、第2四半期の受注はファンドリーの活発な投資により、第1四半期より増加し、407億円となりました。第3四半期も第2四半期とほぼ同水準を見込み、ファンドリー、メモリーが堅調に推移すると予想しています。
FPD 機器事業におきましては、中国向け案件などにより、第2四半期より大幅に増加すると予想しています。

Q：11月5日発表の通期業績予想について、8月9日（第1四半期決算発表）発表予想と比べて、売上高が160億円増加するのに対して、営業利益が13億円しか増加しない理由は？

A：研究開発費の増額、緊急対応策（給与カット）の一部解除などにより固定費が8月9日予想に比べて増加する見込みとなりました。加えて、プロダクトミックスの影響などにより変動費率の改善幅が8月9日予想に比べて縮小する予想となったことなどによります。

Q：半導体製造装置業界の再編が起こっているが、御社への影響は？

A：短期的にはネガティブな影響はなく、お客さまの反応を見る限りにおきましては、商機増加の観点からむしろポジティブではないかと感じています。中期的には、顧客基盤の強化、自社技術・製品のさらなる高度化、外部との連携強化などを通して、影響は最小限にコントロールできるものと考えています。

以 上